

(別 添)

平成16年8月31日

精神部会

精神部会中間まとめ

1 旧精神療養所のこれまでの取り組み

- 政策医療として、身体合併症精神病、薬物・アルコール中毒、難治性精神疾患の診療に取り組み、良質な医療を提供してきた。
- 同様に、精神科救急にも取り組み、地域社会に対し一定の貢献をしている。
- 平成15年度より、社会的入院患者の社会復帰のため、グループホーム等の設置に向けて検討を行ってきた。(実際に、既に実施している施設もある。)
- 社会復帰を支えるため、訪問看護や地域医療連携室の設置等の在宅支援にも取り組みつつある。

2 現在の課題

国立病院機構における精神科を重点的に担っている病院においては、以下のような点が課題となっている。

- 我が国精神医療の方向性に沿って、機能分化を促進し、患者の病状等に応じた適切な医療を提供する必要がある。
- 診療報酬上の評価が低い一方、人件費率が高く、収支が釣り合いのとれた状況にすることが困難となっている。そのため、自らの償還見込みだけでは、建替、改修、医療機器の購入等の施設整備、設備整備が行えず、十分な医療機能を維持することが困難である。
- 精神科救急をはじめとする急性期の患者を受け入れるための体制づくりができないもしくは、準備が中断している状況にある施設がある。また、精神科救急に対する補助金では、空床確保分の補填にはならない。
- 多くの人手を必要とする難治性精神疾患に対する診療報酬上の評価が低いと同時に、退院できず長期療養化した患者を社会復帰させるための様々な取り組みに関し、人的、物的投資が困難である。
- 地域により、医師や看護師を確保することが困難である。

3 今後の方針

今後、以下のような視点で部会の中で、引き続き議論を行い、精神科を重点的に担う病院の方針を定めていくこととする。

- 各病院において、病棟毎に急性期と慢性期に機能分化、専門分化（重症例への対応を含む）、モデル医療化等の病院機能の見直しが必要ではないか。
- 長期入院患者の社会復帰に向けて地域との連携を進め、地域の状況に応じて、社会復帰施設等の設置、在宅を支援する通所サービス、訪問看護、サテライトクリニックの開設等を実施するべきではないか。
- 早期退院をめざして、入院精神医療の充実を図るため、作業療法士、心理療法士等のメディカルスタッフの充実を行うべきではないか。
- 経営収支を少しでも改善させるため、収益増となるよう、遊休施設の活用や、医事業務の見直しを行うなど、様々な努力を行うべきではないか。また、アウトソーシングも含めた思い切った人員配置の見直しが必要ではないか。
- 医師確保のため、各病院は、若手医師を引きつけるような魅力的な臨床、研修を実施する必要があるが、病院が共通に協力して取り組むことも必要である。そのため、何らかの国立病院機構全体としての取り組みが必要ではないか。また、国立病院機構だけで解決しない部分については、厚生労働省その他の関係機関に意見を出していくべきではないか。
- 政策医療として、我が国の精神医療をリードするようなモデル的取り組み（心神喪失者観察法における指定入院医療機関やACTなど）を積極的に実施していくべきではないか。
- 各病院が得意とする治療開発や治験活動を積極的に進めていくべきではないか。
- 精神科救急や難治性疾患等については、特に、診療報酬上において適正な評価がなされるよう、厚生労働省等の関係機関に要望していくことを検討してはどうか。

4 当面の急ぐべき対応策について（まとめ）

- 旧精神療養所の病院は、収支相償をとることが困難であるが、効率的かつ質の高い医療を行うため、収益確保策の検討等、相応の努力を図るべきで

ある。国立病院機構全体としては、各病院の努力を支援するため、経営収支に関わらず、経営的、質的改善ができるような取り組みを行っていくべきである。

- 特に、支援する取り組みとしては、急性期医療への対応（急性期病棟への転換、個室の整備をはじめとする療養環境に配慮した施設の改修、人的体制等）、社会復帰への支援（在宅支援への体制作り、グループホームや社会復帰施設の誘致策等）等が挙げられる。

「旧療養所型病院の活性化方策に関する検討会」

精神部会 委員名簿

	氏名	所属
座長	石垣 一彦	国立病院機構 琉球病院長
	大森 信忠	国立病院機構 賀茂精神医療センター院長
	奥田純一郎	国立病院機構 松籟荘病院長
	柏木 徹	国立病院機構 鳥取病院長
	木暮 龍雄	国立病院機構 さいがた病院長
	澁谷 治男	国立病院機構 花巻病院長
	庄田 秀志	国立病院機構 小諸高原病院長
	高松 淳一	国立病院機構 菊池病院長
	冨永 格	国立病院機構 下総精神医療センター院長
	長尾 圭造	国立病院機構 榊原病院長
	平野 誠	国立病院機構 肥前精神医療センター院長
	舟橋 龍秀	国立病院機構 東尾張病院長
座長	古田 壽一	国立病院機構 北陸病院長
	松原 了	国立病院機構 本部 理事
	丸山 勝也	国立病院機構 久里浜アルコール症センター院長

※15名（五十音順／敬称略）